

—“ふるさとちば”のための政策推進を◆



「一刻の猶予ならない緊急課題」



本会議場で堂本知事に論戦を挑む松下県議

○山武市特集○

6月県議会一般質問

地域救急医療で強く要望

要望

● 医療過疎といわれても不思議ではない五市十町一村の新医療圏において、救急基幹センターの役割を担っている長生、成東病院の体制整備に県を挙げて取り組んでいただきたい。山武地域の医療について、もう一度原点に戻り、あらためて山武都市で協議され、その調整役を県がやっていたいことを

九十九里地域医療センター構想の断念は、山武地域の救急医療に一つの影を投げかけましたが、山武市選出の松下浩明（まつし・ひろあき）県議は、六月定例県議会でこの問題を取り上げ、堂本知事に対し県の前向きな対応を強く要望しました。知事は「一刻の猶予もならない緊急課題」との認識を示しました。また、松下県議は、さる

七月五日に山武市殿台の「ぎくプラザ大ホール」で「がんばれ成東病院」～山武市の医療を考える市民の集いを開くなど、積極的に市民に語りかけています。県議会での他の質問と合わせ、医療問題を中心に1、2面で特集します。

3次救急医療設置が急務 放置できない」と知事答弁

堂本知事 そもそも山武地域を含む山武長生夷隅の保健医療圏は、高度の救急医療を担う第3次救急医療機関がありません。これは県としても放つておくことのできない、何とかしなければとい

私はとしては、大変多くの時間と精力をかけていますし、これからも続けていきたいと思いま

す。四月に改定した保健医療計画をもとに、病床配分を検討し、地域が主体となって医療を担うあらゆる選択肢を考慮に入れながら、関係者と十分に協議してまいりたい。

松下県議 県の考える地域医療とはどのようなものか。また、県は山武の地域医療をどう考

う思いが大変強くありました。山武地域の救急患者の多くは、残念ながら、圏域外の千葉市や海岬などの病院に救急車やドクターへりで運ばれているのが現状です。このことは県にとって緊急課題であり、一刻の猶予もないと思い続けてきました。

松下県議 二月に九十九里地域医療センター計画が断念され、その後、東金など一市二町の新地域医療センター構想も準備段階で暗礁に乗り上げてしまった。県は、二度も同じことを繰り返してしまったことは重大だと思うが、県の考えはどうか。

う思いが大変強くありました。

堂本知事 地域医療とは、住民の健康と医療について地域を挙げて取り組むことを基本としており、がんや脳卒中など高度専門医療、あるいは救急医療などを全般的な対応が必要な医療以外は、住民に身近な二次保健医療圏内の医療機関で、まず対応できるよう

にする考えです。

堂本知事 地域医療とは、住民の健康と医療について地域を挙げて取り組むことを基本としており、がんや脳卒中など高度専門医療、あるいは救急医療などを全般的な対応が必要な医療以外は、住民に身近な二次保健医療圏内の医療機関で、まず対応できるよう

にする考えです。

松下ひろあき県議プロフィール

○経歴○

- 昭和36年1月 山武市椎崎生まれ
- 平成11年9月 山武町議会議員に当選
- 15年9月 同 再選
- 16年5月 山武町長に当選
- 18年3月 合併により山武町長辞任
- 19年4月 千葉県議会議員に初当選

○現職○

- 山武ジュニアバレーボールクラブ会長
- 自民党県連 総務会常任総務
- 同 政務調査会農林水産部会副部会長
- 千葉県議会 環境生活警察常任委員会委員

●山武市や県政のご相談、ご要望をお聞かせください

松下ひろあき 県議事務所 TEL.0475-89-0718

〒289-1223

山武市埴谷1867-35

松下ひろあき公式ホームページ <http://www.hiroaki-m.net/>

「がんばれ成東病院」

～山武市の医療を考える集い～を開催



「山武市の医療を考える市民の集い」で語る

七月五日午後一時半から、山武市役所脇のぎくプラザ・大酒店で「がんばれ成東病院」～山武市の医療を考える市民の集い～が開かれました。集いにはおよそ三百人の参加者がおり、椎名千収市長と坂本昭雄成

東病院長の講演や松下県議が開会中の県議会で医療問題を取り上げて質問した

ことを報告。「成東病院がこんなにも頑張っていることをせひとも県に伝え、成東病院をさらに充実させたい」とあいさつ。椎名市長は「病院問題は、財政や経営と切り離せない。山武地域では救急医療が整っていないのは事実だが、地方自治体の財政事情がそれを許さない。地域として医療にいくらお金をかけられるか、しっかりと決めないとこの問題は解決しない」などと、医療問題の背景を説明しました。

坂本院長は「医師の絶対的な不足が、最も大きな原因。地方大学出身者の大都市志向もあり、地方都市ではどこも医師不足が深刻だ。そこで医師の負担が増加し、かえつて医師不足に拍車がかかっている」などと説明し、成東病院の実態などを

講演の後、ほかにも高知尾正義市議会議長、篠原靖志成東病院診療部長が対談に参加し、それぞれの思いを語ってくれました。

このキャンペーンは、使えないOA機器の電源を切る、クールビズ・ウォームビズを実践することなど、自主的な取り組みを要請しているところです。

松下県議は、「新エネルギー産業の振興にどう取り組んでいくのか。」

絶対的な医師不足原因

内の大半を占める中小企業が、事務所などで省エネ対策に取り組むことは、県内の温室効果ガスの削減に結びつくことから、大切なことと考えています。

今年度、県では新たに「クール・コールボーリーション・チャレンジキャンペー」を実施することとしました。

そこで、千葉県独自のプランを策定し、企業や大学、行政の連携により技術開発や実証プロジェクトの実施を目指す「千葉県新エネルギー産業振興協議会」を設立するなど、技術と市場拡大の両面から積極的に取り組んでいるところです。

クールビズ実践など要請

松下県議 温暖化防止対策

環境生活 防止対策

部長 環境生活 防止対策

県議会議員 松下ひろあき

緊急事業で整備 (作田川改修)

松下県議 作田川改修事業の用地取得など、進捗状況と見通しはどうか。

県土整備部長 作田川の改修は、平成十五年度に境川合流点から源川合流点までの約9・1キロ区間にについて整備に着手したところです。

このうち、上流の日向工区約1・9キロ及び下流の成東工区約3・2キロは、床上浸水対策特別事業によります。この区間の平成十九年度末用地取得率は約95%、工事進捗率は約70%となっています。

誠実に、さわやかにまつした松下ひろあき 明

松下県議 県道飯岡一宮

●6月県議会自民党代表質問

財源不足への懸念を表明

6月定例県議会で最大会派の自民党からは皆川輝大議員（鎌ヶ谷市選出、四期目）が代表質問に登壇しました。皆川議員は、財政問題を第一に取り上げ、本年度は当初予算段階でも百四十五億円もの財源不足のうえ、原油価格の高騰や幅広い物価の値上がりが日本経済に暗い影を落としているなかで、今後予定した税収さえ確保できないのではないかとの懸念から厳しい財政運営を質しました。また、羽田空港の国際化問題での知事の姿勢を厳しく質すとともに、成田新高速鉄道の開通に伴う北総鉄道との運賃格差問題や特急待ちによる利便性の低下などを指摘し、県当局の取り組みを求めました。